

つながる心・広がる力  
JAあおぞらが贈る情報マガジン

# 喜楽

2014. February Vol. 6

## 春の農機・カス 展示会

とき 3月14日(土)AM9:00~PM4:00  
ところ 墓園・JAあおぞら農機・機械センター  
ガム・ハーフ・あおぞら店  
JAあおぞら 燃料耕種センター  
099-475-1212



JAIは農業組合だから組合員しか利用できない、みたいな、あだから農業してない人には理解しづらい言葉が結構多いです。でも、JAは農業組合だから、農業以外の方にとってもまだまだじみの薄いところから、知りませう。

JAは農業だけでなく、色々なサービスの  
方、生産の、育成のまで、どなたでもお気軽にご利用頂けること  
これがJAのいいところなんですよ。地域の皆さんの繋がり一つを大切に  
しながら、地域の協力を組合として、皆さんの夢や幸せの手伝いを



Topics イチゴ農家さんにズームイン！！

# いちご探訪

## あおぞライチゴ

絶妙な甘さ



今

回取材させて頂いたのは、伊崎田の宮  
臨茂樹さんと営むイチゴ農園。イチゴの  
栽培を始めて三十年になる宮脇さんは現在五  
十六アールの農園。うずらを栽培する傍ら、  
また、いちご部会の会長も務めている。



にこやかに微笑む宮脇茂樹さんと光子さんご夫妻（ご自宅前にて撮影）

いいイチゴ作りに頑張りじゃあ。

そうして作られたイチゴは「あおぞライチゴ」と  
呼ばれ、主に愛知県・岐阜県・石川県に出荷  
されています。実は県外での評価の方が高いのであ  
る。九割以上が県外に出荷されるのが珍らしさ  
というか、悲しい現状…。でも、安民心を。△一  
歩あおぞら店でも「あおぞライチゴ」を取り扱って  
おちます。是非一度、貴味あれ！。



高設栽培の様子と炭酸ガス発生装置（宮脇さんのハウスにて撮影）  
光合成を促進させることで収量が上がり、色艶も良く甘みも増すそうだ。



収穫したイチゴを手に微笑む張さんと李さん

中国  
吉林省



通常外国人が日本に入  
国し、就労するためには  
中国当局や日本の入国  
管理局などに提出する  
書類が必要となるが、J

Aあおぞらではそれ一  
切をAが請負い、農家

さんが書類を揃える必  
要はないなどない。さじにJAあおぞ  
らでは外国人実習生専門の生活

指導員も配置。三年間の実習期  
間を手厚くサポートしている。現在

実習生が地城の人々に中国語を  
教えるなど、日本と中国との国際  
交流の輪が広がっています。



指導員の村原です。  
自信を持ってオススメします！



宮

脇さんと力強くサポートで  
いるのが、中国から来た技能  
実習生の李さんと張さんだ。JAあ  
おぞらは平成十八年に鹿児島県

入事業を開始。八年間で延べ三十  
六人の外国人を受け入れた。管内  
外の農家さんより支援目的とし始  
まっている事業だが、鹿児島県内で

同事業を行つてゐるところはない。

宮  
脇さんと力強くサポートで  
いるのが、中国から来た技能  
実習生の李さんと張さんだ。JAあ  
おぞらは平成十八年に鹿児島県

入事業を開始。八年間で延べ三十  
六人の外国人を受け入れた。管内  
外の農家さんより支援目的とし始  
まっている事業だが、鹿児島県内で  
同事業を行つてゐるところはない。  
教えてみると、日本と中国との国際  
交流の輪が広がっています。



地域の農業を支えるためには、安定した収入が必要  
国や自治体にはそういう施策を打ち出して欲しい。

J Aあおぞら  
イチゴ部会  
会長 宮脇  
茂樹